

佐近優太(東京外国語大学大学院博士後期課程)

要旨：インドネシア語の受動態標識の一つである接頭辞 ter-によって派生された動詞(ter 派生動詞)は、能動態標識の接頭辞 meN-によって派生された動詞(meN-派生動詞)と形式的に対応する。しかし接頭辞 meN-が applicative の接尾辞-kan を伴う語幹に付く場合、対となる ter-派生動詞ではしばしばその接尾辞-kan が脱落すると分析がなされる。しかしこの分析は、[meN-[X-kan]]という形態分析に反すること、接尾辞-kan が脱落しない[ter-X-kan]という形式の成立条件が不明であるという問題があった。本発表では、インフォーマント調査に基づいて接頭辞 ter-と接尾辞-kan の関係性を記述し、以下の二点を主張する。(a)接尾辞-kan の脱落に見える事例は、自動詞語基に接頭辞 ter-が付いていると分析すべきである。(b)[ter-X-kan]という形式の容認度は語幹[X-kan]のもつ意味構造に基づいて判断することができる。

1. はじめに

本発表では、インドネシア語における接頭辞 ter-と接尾辞-kan の関係性について考察を行う。インドネシア語はオーストロネシア語族マレー・ポリネシア語派に属するマレー語を基盤とし、インドネシアの国語・公用語として広く用いられている。基本的語順は SVO、形態的に膠着語に分類され、接辞による派生が比較的多く観察される。その中で態に関わるものに接頭辞 meN-, di-, ter-がある。接頭辞 meN-¹は能動態標識として、接頭辞 di-, ter-は受動態標識として機能する²(ルシアナワティ 1998: 91)。(1)では(1a)で主語であった saya「私」は(1b)では oleh を伴って斜格をとり、目的語であった buku saudara「あなたの本」は主語となっている。また受動態標識のうち、接頭辞 di-は無標の形式と捉えられるのに対して、接頭辞 ter-は「結果状態」「可能」「非意図」の意味を付与するという点で意味的に有標である。

- (1) a. Saya mem-bawa buku saudara. b. Buku saudara {di/ter}-bawa oleh saya.
 1SG ACT-take book brother book brother {PASS/TER}-take by 1SG
 「私はあなたの本を持って行った」 「あなたの本は私が持って{行った/行ってしまった}」
 (a. 作例, b. Sneddon et al. 2010: 118)

一方で接尾辞-kan は基本的に causative, benefactive, instrumental の機能を持つ(Sneddon et al. 2010, Shiohara 2012: 68, Kroeger 2007: 6ff)。(2)は causative、(3)は benefactive、(4)は instrumental の例である。

- (2) Ibu mem-bangun-kan Siti 「母は Siti を起こした」
 mother ACT-wake-CAUS Siti (Sneddon et al. 2010: 78)
- (3) Dia men-jahit-kan anak=nya rok. 「彼/彼女は子供にスカートを縫ってあげた」
 3SG ACT-sew-BEN child=3 skirt (Sneddon et al. 2010: 85)
- (4) Dia me-mukul-kan tongkat pada anjing. 「彼は棒を使って犬を殴った」
 3SG ACT-hit-INST stick on dog. (Sneddon et al. 2010: 83)

また一部接尾辞-kan の付与が任意である場合もある。この場合接尾辞-kan の付与が統語的影響を及ぼさない(Kroeger 2007: 15-16, Sneddon et al. 2010: 88)。

- (5) Dia menanam(-kan) padi itu di sawah=nya. 「彼は自分の畑に稲を植えた」
 3SG ACT.plant(-KAN) rice that in rice.field=3 (Kroeger 2007: 16)

以上を踏まえて本発表のテーマである接頭辞 ter-と接尾辞-kan の関係をみる。語幹に接尾辞-kan が含まれる場合、接頭辞 meN-と接頭辞 ter-は以下のように対応する。

- (6) selesai 「終わる」 → menyelasai-kan (meN-[selasai-kan]) 「終わらせる」
 → ter-[selesai-kan] 「終わらせられる」

¹ 接頭辞 meN-の N-の部分は語基の冒頭音に応じて m-, n-, ng, ny-, ŋ-の形で現れる。これらは語基にそのまま接続する場合と、冒頭音と置き換わる場合がある。本発表では前者は(i)のように形態素境界を設け、後者は(ii)のように表記する。

(i) mem-bawa (ii) memukul [meN- + (p)ukul]
 ACT-take ACT.hit

² 本稿では接辞 X によって形成された動詞を「X 派生動詞」と呼ぶ。

しかし語幹に接尾辞-kan が含まれる多くの場合に、接頭辞 ter-を付与出来ないことが指摘されている (cf. Sneddon et al. 2010: 118)。 (7)では語幹 pesona-kan 「魅了する」に接頭辞 ter-をつけることが出来ない。一方で接頭辞 meN-はつけることが出来る。また、接尾辞-kan を含まない ter-派生動詞は存在する。

(7) a. *ter-pesona-kan b. ter-pesona 「魅了される」 (cf. mem-pesona-kan) (Sneddon et al. 2010: 119-120)

このタイプには他に以下のものがある (Sneddon et al. 2010: 118-120, Verhaar 1984: 10, Wolff 1978: 185)。

(8) ter-tinggal-{\emptyset/?kan} 「おいていかれる」 (cf. meninggal-kan[meN-tinggal-kan]「おいていく」)
ter-letak-{\emptyset/*kan} 「位置している、置いてある」 (cf. me-letak-kan 「～を位置付ける」)
ter-bukti-{\emptyset/*kan} 「証明される、明らかになる」 (cf. mem-bukti-kan 「～を証明する」)

ただし、接頭辞 ter-が接尾辞-kan の有無にかかわらず付与できる場合もある。この場合、両者で意味の差が生じる。次の(9)のように接尾辞-kan が伴う場合は可能の意味、伴わない場合は非意図の意味をもちやすいとされる (Sneddon et al. 2010:123, Wolff 1978:185)。

(9) a. ter-pikir-kan 「考えることができる」 [可能] b. ter-pikir-\emptyset 「ふと思いつく」 [非意図]

このような(7)から(9)の現象に対して、Sneddon et al. (2010), Verhaar (1984), Wolff (1978)は「ter-派生動詞では多くの場合接尾辞-kan が脱落する」との分析を行っている。これは例えば意味的に対応する meninggal-kan 「置いていく」と ter-tinggal 「置いていかれる」とを比べた場合、能動文から受動文への変換が行われる際に接尾辞-kan が脱落したように見えるためである。また(9)の場合も能動態の memikirkan [meN-pikir-kan] 「考える」から接頭辞 ter-を用いた受動態にする際、接尾辞-kan が保持されれば可能の意味(9a)に、脱落すれば非意図の意味(9b)になるといった説明がなされる。

しかしここには三つ問題がある。一点目は形態的分析において矛盾が生じることである。meN-X-kan という形式は[meN-[X-kan]]のように[X-kan]が接頭辞 meN-の語幹として分析される³。そのため(6)で扱ったように、接頭辞 ter-においても[ter-[X-kan]]と分析することが一般的である。一方で接尾辞-kan の脱落を認めるということは、接頭辞 ter-と接尾辞-kan を[[ter-]X-[kan]]のような共接辞とみなすことと同義であり、上述の分析と矛盾が生じる。二点目は、意味の動機づけが出来ないことである。(9)において接尾辞-kan が非意図と可能の意味の違いにどのように関与しているかは説明が難しい。またのちに触れるように、語幹に接尾辞-kan が含まれていても可能の意味にならない場合もある。三点目は基本的に接頭辞-kan が脱落する一方ではない場合もある理由を説明できない点である。これらの問題は両接辞の関係性についての体系的な記述がなされていないため、そして接尾辞-kan の脱落に代わる十分な説明が与えられなかったためと考えられる。

そこで本発表では、まず接頭辞 ter-と接尾辞-kan の関係を記述する。そして接尾辞-kan が脱落しているように見える事例は、実際には自動詞語基に接頭辞 ter-が付いた形式であることを示す。最後に[ter-[X-kan]]という分析に基づいて接頭辞 ter-が語幹[X-kan]に付くことのできる条件を考えることで先行研究の代わりとなる分析の提示を目指す。

2. 調査

ここでは接頭辞 ter-と接尾辞-kan に関する記述を行う。調査にあたっては、Kroeger(2007)と Sneddon et al. (2010)が例として挙げる[meN-X-kan]という形式に対して、それと語幹を同じくする[ter-X-kan]が存在するかをみる。また同時に、語幹に接尾辞-kan を含まない[ter-X]という形式が許容されるかも確かめる⁴。記述は上記の2つの先行研究を基に、語基の品詞ごとに行う。

[A] 他動詞語基

語基が他動詞の場合、接尾辞-kan は[A-1]benefactive 及び instrumental として機能する場合と、[A-2]接尾辞-kan が構造的変化を起こさない場合がある。

³本発表は[X-kan]という語幹に接頭辞がつくという立場をとるものである。しかし便宜上、本発表では [meN-X-kan]という形式を meN-kan 派生動詞、[ter-X-kan]という形式を ter-kan 派生動詞と呼ぶ。

⁴容認性判断はインドネシア語母語話者であるコンサルタント2名によるものである。両者とも許容しない表現には*を、片方のみが許容しないまたは意味はくみ取れるが自然な表現ではないとみなした表現には??を付している。

[A-1]benefactive または instrumental として機能する場合、ter-kan 派生動詞を作ることはできないが、ter-派生動詞は作ることが出来る。この時 ter-派生動詞に benefactive 及び Instrumental の意味は含まれない。

(10) Benefactive の場合

mem-buat-kan 「作ってあげる」 > *ter-buat-kan / ter-buat 「作られる」
ACT-make-BEN

(11) Instrumental の場合

menembak-kan 「武器を(~に向けて)撃つ」 > *ter-tembak-kan / ter-tembak 「撃たれる」
ACT.shoot-INST

[A-2]接尾辞-kan が構造的変化を引き起こさない場合、meN-派生動詞と meN-kan 派生動詞に意味の差があるかで二通りに分かれる。両者は ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の両方が存在する点で共通している。

(12)は接尾辞-kan の付与によって統語的变化は起こさないものの、意味に変化が見られる場合である。tahan を語基とする語は接尾辞-kan の有無にかかわらず他動詞であるが、意味が異なる。この場合 ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の両方を形成できるが、それらも異なる意味を持つ。

(12) '(meN-)tahan' 「拘留する、閉じ込める」

menahan-kan 「~を耐える」 > a. ter-tahan 「閉じ込められる」 b. ter-tahan-kan 「耐えられる」
ACT.bear-KAN

接尾辞-kan が統語的变化も意味的变化も引き起こさない場合も ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の両方をとることが出来る(13)。また思考動詞は基本的にこのグループに属する(14)。ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の意味の違いについて、(13)は大きな違いはないが、(14)では上述のように「可能」か「非意図」の意味を帯びやすいという違いが存在する(cf. (9))。

(13) '(meN-)kirim' 「送る」

mengirim-kan 「送る」 > ter-kirim-{\0/kan} 「送られる」
ACT-send-KAN

(14) 'pikir' 「考える」

memikir-kan 「考える」 > a. ter-pikir 「ふと考える」 b. ter-pikir-kan 「考えられない」
ACT.think-KAN

[B] 自動詞語基

語基が自動詞の場合、接尾辞-kan は causative として機能する。自動詞語基では ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の有無によって3パターンに分かれる。

[B-1] ter-派生動詞のみ許容

(15) 'jatuh' 「落ちる」

men-jatuh-kan 「落とす」 > *ter-jatuh-kan / ter-jatuh 「落ちてしまう」
ACT-fall-CAUS

'(ber-)gabung' 「合流する」

meng-gabung-kan 「結ぶ」 > *ter-gabung-kan / ter-gabung 「結ばれている」
ACT-join-CAUS

[B-2] ter-kan 派生動詞のみ許容

(16) 'selesai' 「終わる」

menyelesai-kan 「終わらせる」 > ter-selesai-kan /*ter-selesai 「終わっている」
ACT.finish-CAUS

(17) 'sampai' 「届く」

menyampai-kan 「届ける」 > ter-sampai-kan / ??ter-sampai 「届いている」
ACT.arrive-CAUS

[B-3] ter 派生動詞も ter-kan 派生動詞も許容しない

- (18) ‘renang’ 「泳ぐ」
me-renang-kan 「泳がせる」 > *ter-(r)enang-kan / *ter-(r)enang
ACT-swim-CAUS
‘datang’ 「来る」
men-datang-kan 「来させる」 > *ter-datang-kan / *ter-datang
ACT-come-CAUS

[C]形容詞語基

形容詞の場合、接尾辞-kan は causative として機能する。

[C-1]多くの場合、ter-派生動詞も ter-kan 派生動詞も存在しない⁵。「ter+形容詞」の形式は存在するが、これは接頭辞 ter-が別に持つ、最上級の意を表す形容詞を派生するという機能によるものである。

- (19) ‘besar’ 「大きい」
mem-besar-kan 「大きくする」 > *ter-besar-kan / ter-besar 「最も大きい」 「*大きくさせられる」
ACT-big-CAUS
(20) ‘cemas’ 「心配する」
men-cemas-kan 「心配させる」 > *ter-cemas-kan / ter-cemas 「最も心配」 「??心配させられる」
ACT-worried-CAUS

[C-2][C-3] 形容詞語基のうち、一部は ter-派生動詞か、ter-kan 派生動詞のどちらかをとることが出来る。次の(21)は ter-派生動詞のみを、(22)は ter-kan 派生動詞のみをとることが出来るものの例である。

- (21) ‘kejut’ 「驚く」
mengejut-kan 「驚かせる」 > *ter-kejut-kan / ter-kejut 「驚く」
ACT.surprised-CAUS
(22) ‘puas’ 「満足する」
memuas-kan 「満足させる」 > ter-puas-kan / *ter-puas 「満足させられる」
ACT.satisfied-CAUS
‘yakin’ 「信じる」
me-yakin-kan 「信じさせる」 > ter-yakin-kan / *ter-yakin 「信じさせられる」
ACT-believe-CAUS

[D]名詞語基

語基が名詞の場合、語幹[X-kan]の意味は上述の一般的なものとやや異なる。大きく[D-1]「語基が表す場所に対象を置く」という意味と、[D-2]それ以外の意味をもつ場合に分けられる。後者の意味に関して統一的な説明は現段階では難しく(Kroeger 2007: 19)、本発表では立ち入らない。前者は ter-kan 派生動詞を形成できる(23)が、後者は形成することが出来ない(24)。どちらの場合も ter-派生動詞は存在しない。

- (23) ‘pasar’ 「市場」
memasar-kan 「市場に出す」 > ter-pasar-kan / *ter-pasar 「市場に出ている」
ACT.market-KAN
(24) ‘hadiah’ 「プレゼント」
meng-hadiah-kan 「プレゼントを贈る」 > *ter-hadiah-kan / *ter-hadiah
ACT-present-KAN

⁵ baru 「新しい」は接頭辞 ter-が付くことによって ter-baru 「最も新しい」という最上級の意を表す形容詞となる。しかし同時に ter-baru-kan 「新しくできる」という形式も存在する。インフォーマントによればこれは energi terbarukan 「再生可能エネルギー」というように専ら用いられ、比較的新しい用法であるという。

ここまで語基ごとに記述を行ったが、インドネシア語は品詞に関する形態統語的区別が曖昧であり、これらの語基分類が正しいかどうかには異論もある。この点は今後の課題で簡単に触れる。ここまでの結果は以下の表1のようにまとめられる。

語基	他動詞		自動詞			形容詞			名詞	
-kan	BEN/INST	OPTIONAL	CAUS			CAUS			[PUT IN N]	OTHER
	[A-1]	[A-2]	[B-1]	[B-2]	[B-3]	[C-1]	[C-2]	[C-3]	[D-1]	[D-2]
ter-	✓	✓	✓	-	-	-	✓	-	-	-
ter-kan	-	✓	-	✓	-	-	-	✓	✓	-

表1: ter-派生動詞と ter-kan 派生動詞の可否

3. 考察

前節では語基ごとに ter 派生動詞と ter-kan 派生動詞が存在するかどうかを確認した。本節ではこの記述を基に、先行研究で接尾辞-kan の脱落とみなされていた現象に代わりとなる説明を与える(3.1)。そして ter-kan 派生動詞の容認度は語幹[X-kan]の意味構造によって判断できることを示す(3.2)。

3.1 「受動態標識+自動詞」

前節で確認した分類のうち、接尾辞-kan の脱落とされていた現象に当てはまるものは「ter-派生動詞は存在するが、ter-kan 派生動詞は存在しない」分類である。さらにその中で meN-kan 派生動詞と ter-派生動詞が意味的に対応しているもの、つまり[B-1], [C-2]がこれに当てはまる。

- (25) (cf. (15)(21)) men-jatuh-kan 「落とす」 > *ter-jatuh-kan / ter-jatuh 「落ちてしまう」
 mengejut-kan 「驚かせる」 > *ter-kejut-kan / ter-kejut 「驚く」

本発表では、これらの派生動詞は「自動詞語基に接頭辞 ter-が付いたもの」に属するとみなす。接頭辞 ter-は基本的に受動態標識であるが、一部のものに限り自動詞に付けることが出来る(Sneddon et al. 2010: 118)。この場合統語的な変化は生じず、派生語に「非意図」の意味が付与される。

- (26) duduk 「座る」 > ter-duduk 「うっかり座ってしまう、尻もちをつく」
 tidur 「寝る」 > ter-tidur 「うっかり寝てしまう、居眠りする」

この立場をとる利点は二つある。一つ目は(9)のような例に対して意味の動機づけが行える、具体的には接尾辞-kan のない場合に非意図の意味が現れやすい理由を説明できる点、二つ目は従来の「接頭辞 ter-+自動詞語基」に関する説明のずれを解消できる点である。以下詳しく説明を行う。

一点目について、本発表の立場を取れば、接尾辞-kan のない場合に非意図の意味が現れやすい理由は「受動態標識が構造的変化を引き起こさない場合、動作主性の減少マーカーとして機能している(Keenan & Dryer 2007: 331)」ためと捉えることが出来る。これにより(25)(26)の例はもちろん、思考動詞において ter-派生動詞では非意図の意味が、ter-kan 派生動詞では可能の意味が出やすいことに対する説明が可能になる。以下のように pikir 「考える」は ter-派生動詞と同じ構造を持つ。(27)と(28)はともに動作主を表す名詞が主語の位置を占める。

- (27) Dia pikir bulutangkis adalah pilihan yang tepat.
 3SG think badminton COP choice REL appropriate
 「彼はバドミントンが正しい選択であると考えた」

- (28) Saya ter-pikir bikin website tentang fauna dan flora khas Sulawesi.
 1SG TER-think make website about fauna and flora unique.to Sulawesi
 「私はスラウェシ固有の動植物についてのウェブサイトを作ることを思いついた」

一方で接尾辞-kan が伴う場合は、構造上の変化が生じる。思考者を表す名詞句は(29)では主語の位置に置かれているが、(30)では oleh が導く斜格として表れている。思考対象を表す名詞句も(29)では目的

語の位置、(30)では主語の位置にある。

(29) Maka itu Pemda wajib memikir-kan nasib mereka yang ada diluar Lingga.
then that local.government responsible ACT.think-KAN fate 3PL REL be outside Lingga
「そのため、地方政府は Lingga の外に住んでいるものの運命を考える義務がある」

(30) Kota baru itu letak=nya tak ter-pikir-kan oleh orang biasa:
town new that position=3 NEG TER-think-KAN by people normal
「その新しい街の場所は普通の人には考え付かない」

(28)では *terpikir* が非意図の意味を、(30)では *terpikirkan* が可能の意味を持っている。ここでは(28)においては接頭辞 *ter-*によって構造的変化が起こらないために非意図の意味が、(30)では構造的変化が起こるために可能の意味が現れていると考えられることが出来る⁶。

次に二点目について、従来の研究ではいわゆる「*meN-kan* 派生動詞から接尾辞-*kan* が脱落してできた *ter-*派生動詞」と(26)の「接頭辞 *ter-*+自動詞語基」の区別が曖昧であった。(26)は「接頭辞 *ter-*+自動詞語基」の例であるが、*men-duduk-kan*「座らせる」から接尾辞-*kan* が脱落して *ter-duduk*「座ってしまう」が生じたと分析するものもある。本発表では、接尾辞-*kan* の脱落で説明されてきたものは実際には「接頭辞 *ter-*+自動詞語基」であると主張する。そのためこうした分析のずれを解消することが出来る。

3.2 接頭辞 *ter-*と接尾辞-*kan*

次に *ter-kan* 派生動詞の成立条件について考える。以上の議論を考慮すると、接尾辞-*kan* が保持されるか否かという軸ではなく、語幹[X-*kan*]が接頭辞 *ter-*の求める意味枠組みと合致するかという点から *ter-kan* 派生動詞の容認度を定めるができる。以下代表的な *ter-kan* 派生動詞を再掲する。

(31)=(23) *memasar-kan* 「市場に出す」> *ter-pasar-kan* / **ter-pasar* 「市場に出ている」

(32)=(22) *memuas-kan* 「満足させる」> *ter-puas-kan* / **ter-puas* 「満足させられる」

(33)=(16) *menyelesai-kan* 「終わらせる」> *ter-selesai-kan* / **ter-selesai* 「終わっている」

これについては、まず接頭辞 *ter-*を付けることが出来る語幹の条件を考える必要がある。接頭辞 *ter-*は基本的に形容詞か動詞を語幹にとる。特に動詞は「ある行為が」非意図的に行われたり、可能であったりということを表す。そのため状態を表す語や、物質を表す語は動詞を形成する接頭辞 *ter-*が要求する意味枠組みと合致しない。上の例で *ter-*派生動詞が存在しないのは、こうした接頭辞 *ter-*の性質による。

次に[X-*kan*]が語幹となった場合を考える。例えば(31)*pasar-kan*「市場に出す」は厳密には「動作主の行為が対象に影響を与え、市場に出るという結果が生じた」という意味を表す。このように意味構造に「行為の対象の変化とその結果状態」が存在する語幹は接頭辞 *ter-*をつけることが可能であり、文全体として「主語が語幹の表す行為の影響を受けて、その結果の状態にある」という意を表す(佐近 2019: 97)。(34)の場合は「指紋式の金庫」が「市場に流通している状態である」ことに焦点が当てられた文となる。

(34) *Brankas dengan fingerprint ter-pasar-kan di Indonesia.*
safe with fingerprint TER-market-KAN in Indonesia
「指紋式の金庫がインドネシアに流通した」

一方で *ter-kan* 派生動詞が存在しないものもある。ここでは**terbuatkan* を例にとる。まず無標の受動形式である *di-*派生動詞をみる。

(35) *Fans Real Madrid ingin Federico Valverde di-buat-kan patung.*
fans Real Madrid want Federico Valverde PASS-make-BEN statue
「Real Madrid のファンは Federico Valverde に銅像を作ってあげてくれることを望んだ」

ここでは *di-buat-kan* の主語の位置に受益者項が来ていることが確認できる。そのため *ter-kan* 派生動詞においても主語には受益者項が来ることが予想される。しかし、この場合受益者は語幹 *buat-kan* が表

⁶ またこの考えは、佐近(2019)の *ter-*派生動詞が持つ非意図の意味は多くの場合文脈依存的なものであり、自動詞語基及び思考動詞語基においてのみ接頭辞 *ter-*が非意図の意味を動機づけているという主張とも整合性がある。

す意味のいわば着点であり、行為の影響によって変化する対象ではない。そのため接頭辞 *ter-*が求める 枠組みと合致せず、**terbuatkan* が不適格となる。**terhadiakan*, **tertembakkan* についても同様である。

このように語幹[X-kan]を基に判断することで、*ter-kan* 派生動詞の容認度の差を説明することが出来る。ただしその他の例、[B-1]**terjatuhkan*, [B-2]**terdatangkan*, [C-1]**terbesarkan* がなぜ許容されないかについては現段階で明らかになっておらず、今後の課題として残っている。

4. まとめと今後の課題

本発表では(a)接尾辞-kan の脱落に見える事例は、自動詞語基に接頭辞 *ter-*が付いていると分析すべきであること、(b)[*ter-X-kan*]という形式の容認度は語幹[X-kan]のもつ意味構造に基づいて決めることができることの2点を主張した。前節の最後に述べたようにまだ課題も残るが、先行研究の分析における矛盾を解消できるという点で本発表は有益であると考えられる。

また従来 *puas* は形容詞、*selesai* は動詞とされてきたが、両者は接頭辞 *ter-*と接尾辞-kan に対するふるまいから同じ品詞に属するとも考えることができる。インドネシア語は品詞や語彙アスペクトの区別があいまいであり、議論が多くある。そのため接頭辞 *ter-*と接尾辞-kan の組み合わせを考えることが品詞・語彙アスペクト分類に寄与することは、今後のこの研究の発展性を示唆している。

略号

1: first person, 3: third person, ACT: active-voice, BEN: benefactive, CAUS: causative, COP: copula, INST: instrumental, KAN: suffix -kan, NEG: negation, PASS: passive-voice, PL: plural, REL: relative, SG: singular, TER-: prefix *ter-*

用例出典

(27) <https://www.inews.id/sport/all-sport/5-fakta-menarik-jonatan-christie-pernah-disorot-media-asal-china> (2020年5月1日最終閲覧) / (28) <https://kompas.id/baca/utama/2019/11/27/warisan-wallace-yang-mencerahkan-anak-muda/> (2020年5月1日最終閲覧) / (29) <https://kumparan.com/batamnews/sui-hiok-minta-pemda-bantu-kebutuhan-warga-lingga-di-perantauan-1tK7PLFoYdE/full> (2020年5月8日最終閲覧) / (30) <https://www.cnbcindonesia.com/market/20191107194259-17-113605/jadi-pengamat-saham-dahlan-iskan-analisis-ipo-aramco/2> / (34) <https://www.tribunnews.com/techno/2018/02/23/brankas-dengan-fingerprint-terpasarkan-di-indonesia>. / (35) <https://www.viva.co.id/sport/gelanggang/1195706-fans-real-madrid-ingin-federico-valverde-dibuatkan-patung>

先行文献

- Keenan, E., & Dryer, M. (2007) "Passive in the world's languages." In T. Shopen (ed). *Language Typology and Syntactic Description*. Cambridge: Cambridge University Press. 325-361.
- Kroeger, Paul R. (2007). "Morphosyntactic vs. morphosemantic functions of Indonesian -kan." In *Architectures, rules, and preferences: Variations on themes of Joan Bresnan*, ed. Annie Zaenen, Jane Simpson, Tracy Holloway King, Jane Grimshaw, Joan Maling, and Chris Manning, 229–251. Stanford: CSLI Publications.
- Shiohara, A. (2012). "Applicatives in Standard Indonesian." *Senri ethnological studies*, 77. 59-76.
- Sneddon J, N., Adelaar, A., Djenar, D. N., & Ewing, M. (2010). *Indonesian; A comprehensive grammar*. 2nd edition. London: Routledge.
- Verhaar, John W. M. (1984) "Affixation in Contemporary Indonesian" *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia* 18. 1-26.
- Wolff, John U. (1978) *Formal Indonesian*. New York: Cornell University Press.
- 佐近優太(2019)「事態認知モデルを用いたインドネシア語の接頭辞 *ter* 派生動詞の考察」『日本認知言語学会第20回大会予稿集』95-98.
- ルシアナワティ(1998)「インドネシア語における種々の受身構文について -日本語とインドネシア語の対象研究-」『STUDIUM 25』大阪外国語大学大学院院生協議会. 91-109.